

憲法しんぶん 速報版

発行 憲法改憲阻止各界連絡会議 (憲法会議)

2017年10月10日 (火)

NO. 797号 本号3頁

Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp TEL03-3261-9007
ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp FAX03-3261-5453

日比谷野音で辺野古新基地の反対集会 2000人が「NO！」

4日、東京の日比谷野外音楽堂で「辺野古新基地建設を許さない10・4集会」を開催されました。名護市辺野古の新基地建設を巡り、無許可での岩礁破砕は違法として、沖縄県が国を相手に破砕を伴う工事の禁止を求める訴訟が10日に始まるのを前に、開催されました。主催は、基地の県内移設に反対する県民会議、「止めよう！辺野古埋め立て」国会包囲実行委員会、戦争させない・9条を壊すな！総がかり行動実行委員会の3者。集会には、2000人が参加しました。



「沖縄からの訴え」として、基地の県内移設に反対する県民会議の大城悟事務局長は、海上では護岸の工事が行われているとしつつも「ゲート前の行動や全国からの声によって、工事は沖縄防衛局の計画通りに進んでいない。大きな行動で工事を遅らせ、建設を止めよう」と訴えました。

また、「特別アピール：土砂運搬を拒否して辺野古を守る」として、全国港湾労働組合連合会の糸谷欽一郎中央執行委員長が発言。糸谷氏は「土砂搬出など県民の意に反することには応じられない。実力で阻止する」と主張しました。

さらに、市民団体から「米国ジュゴン訴訟について」「機動隊派遣の中止を求めて」「オスプレイの配備撤回」等の発言がありました。

参加者は全国で新基地建設反対の声を上げ、不当判決を許さないと裁判を注視するよう呼び掛けるアピールを採択。また、新石垣空港への緊急着陸や墜落事故が続くオスプレイの配備撤回も求めました。

北海道 共産、社民、立憲民主が共闘で協定書にサイン

市民グループ「戦争させない市民の風・北海道」、共産党北海道委員会、社民党北海道連合、立憲民主党北海道は5日、札幌市内で次期衆院選での選挙協力や政策についての協定書に調印にサインしました。共産党は立憲民主党や無所属の候補者がいる道内8選挙区で候補者を取り下げ、立憲民主党は4区で候補者を立てないとしています。

協定書などによると、立憲民主党は民進系候補がいる2区、9区、12区と民進空白区の7区で候補者を立てない。共産党は1区、3区、4区、5区、6区、8区、10区、11区で候補者を立てない。社民党北海道は選挙区で候補者を立てずに、3者が相互支援を行うーとしています。

政策については、①立候補者は安法法制の廃止、共謀罪の廃止をめざす。②立候補予定者は立憲主義と民主主義の回復をめざす。③立候補者は憲法9条の改定に反対する、の3項目です。

記者会見で、5区補選で野党共闘の橋渡しをしてきた「市民の風」の共同代表、上田文雄・元札幌市長は「やっとスタートラインにつくことができた」と述べました。

立憲民主党北海道代表代行の荒井聡氏は「政党としては8人しかいない弱小政党だがベースは民主党。原点をもう一度取り戻す。本当は(民進系)北海道全員の候補を束ねたかった」と語りました。青山慶二・共産北海道委員長は「野党の統一は大きな意味がある。原点は去年の5区補選。民

進の希望の党合流で、厳しくなると思ったが、枝野氏の立憲民主党立ち上げという英断を評価したい。今回は全道12区すべてで共闘する。全国をみても北海道だけで画期的だ」と述べました。社民党北海道連合の浅野隆雄幹事長は「一本化、統一ということで多くの力で応援をしていく」と話しました。

なお、民進等からは2区、9区、12区の候補予定者が「希望の党」入りしています。

市民連合3日間、連続宣伝行動

市民連合（安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合）は7日、3日連続の宣伝行動を新宿駅西口から始めました。はじめに市民連合を代表して中野晃一氏があいさつ。「安倍さんは国難突破解散だというのが本音は野党をたたきたいだけです」と述べ、「こうしたなかで踏ん張っている野党がいます。雰囲気だけの政治はもうたくさんです。少しずつ、まともな政治にしていきましょう」と訴えました。



その後、駆けつけた日本共産党の吉良よし子参院議員、社民党の福島瑞穂参院議員、立憲民主党の海江田万里元衆院議員と、野党3党の代表がそろって「安倍政権を倒すために力を合わせよう」と訴えました。日本共産党の吉良氏は「市民と野党の共闘にこそ希望があります。共闘を前に進め、市民の手に政治を取り戻そう」と呼びかけました。

希望の党小池代表に自民党や「日本会議」から期待の声

報道陣から原発再稼働について問われ、「原子力規制委員会が総合的に判断されている再稼働に依存をとらえることはしない」と答えたのは、原発ゼロの公約をかかげた希望の党の小池百合子代表です。異存を唱えないと言う姿勢は、規制委員会の判断次第で30年以降も原発を容認するという一方で、批判の声が上がっています。

このように、希望の党、小池百合子氏の本質が鮮明になって来ました。一方で、自民党や「日本会議」などから期待の声が出ています。

日本会議国会議員懇談会の自民党議員は「選挙戦としては都市部でかなり厳しい」と述べつつ、「小池にキャスティングボードを握られるのはよしとしないが、改憲をしたいと思っている側からすれば、改憲勢力が拡大するということであり、民進党が拡大するよりよい」と明言しています。同じ議連の自民党憲法改正推進本部に所属する議員は「希望が伸びれば憲法改正のチャンスが広がる」と述べています。

また、安倍首相は、小池氏が第一次安倍政権で安全保障担当の首相補佐官、初の女性防衛相を務めたとして、「安全保障、基本的な理念は同じだろう」と語り、さらに「与党だけでも憲法改正発議はできない。東京の小池知事も日本維新の会も憲法改正には前向きだと思う」とも述べ、改憲への期待を表明しています。

マスコミ関係者も「希望が伸びれば、北朝鮮対応を理由とした挙国一致・改憲翼賛の体制になるのは目に見えている。原発ゼロや消費税凍結など、受けのいいことを並べるポピュリズム（大衆迎合）の本領はそこにある」と述べています。

総選挙結果では、自民、維新、希望の「改憲大連合」の出現となります。

ノーベル平和賞 I CAN（核兵器廃絶国際キャンペーン）に

6日、ノルウェーのノーベル賞委員会は、今年7月に国連で採択された核兵器を違法とする核兵器禁止条約の成立で「主導的役割を果たした」として、今年のノーベル平和賞を核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）に授与すると発表しました。

ICANは、核の非人道性を訴え、広島や長崎の被爆者や日本の反核・平和運動の中心的存在で

ある日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）と連携して運動を展開しています。

アンデルセン委員長は授賞理由で「核兵器使用が人道上破壊的な結果を導くという危険性を訴え、核兵器禁止条約の制定で革新的な努力をした」と評価しました。また、委員長は授賞理由で「北朝鮮のように核兵器を獲得しようとする脅威」が高まっていると名指しで非難。米など核保有5大国にも「次は核保有国が核のない世界に向けて関与すべきだ」と、核兵器削減への「真剣な交渉」を促しました。

I CANのベアトリス・フィン事務局長は6日、ジュネーブで記者会見し、核廃絶を訴え続けた被爆者の「絶え間ない努力」が条約制定に「重要な役割を果たした」と強調。「個人的な意見」と前置きしたうえで「被爆者とともに（授賞式に）出席したい」と述べました。また、唯一の被爆国でありながら交渉に参加しなかった日本政府にとって今回の受賞は「大きな事件だろう」と発言。未署名の国に「議論を促す」契機となることに期待感を示しました。さらに、トランプ米大統領と北朝鮮の金正恩朝鮮労働党委員長に対して「核兵器使用の威嚇は違法であり、条約を尊重して行動を控えるべきだ」と訴えました。

国連の中満泉事務次長は6日、国連本部で記者会見し、「世界が北朝鮮による核の危機に直面しているこのタイミングでの受賞は重要だ」と意義を強調しました。

日本被団協の藤森俊希事務局次長は今年3月、被爆者代表として初の交渉会議が開かれた国連本部でスピーチ。核兵器禁止条約の前文には「ヒバクシャ（被爆者）」の苦しみと被害に留意するとの文言が盛り込まれました。恥ずかしいことに、日本政府は、米国の同盟国として「核抑止力」を全面否定する条約の交渉会議には参加せず、採択もしていません。この機会に日本政府が核兵器禁止条約に調印することを、強く求めましょう。

各地のとりのくみ

富山 「アベ改憲許さない」富山市内をデモ

「総選挙で政権交代を アベ9条改憲は許さない！」。国民大運動富山県実行委員会と安保破棄富山県実行委員会は3日昼休み、約50人が参加して富山市内の富山駅前目抜き通りをデモ行進しました。

新婦人県本部の広瀬妙子会長が「安倍政権の森友・加計疑惑隠しの解散は許せない。立憲主義を掲げる国会議員を多数にしていきたい」と訴えました。

参加者は「政治の私物化いまずぐやめろ」「憲法改悪絶対反対。武力で平和はつくれません」「野党は共闘。市民と共闘」などとコールしながら雨の降るなか行進しました。

新婦人の会 新婦人しんぶん 2017年10月5日 第3197号「ホットライン」より

大阪 毎月19日行動でスタンディング 泉南支部 吉川千津子さん

安保法制が強行された忘れられない19日。毎月、市内各所でスタンディングをしています。9月もスーパー前の交差点で行いました。参加者は18人、徒歩、自転車、自動車など通りかがる人たちの目を引きました。安倍退陣、戦争法廃止まで頑張りましょう、と意思統一しました。

愛媛 公民館で平和のとりのくみ 今治支部 保持雅子さん

今治支部うさぎ班では、親子リズム体操で利用している公民館で『はだしのゲン』の上映、折り鶴、戦争や原爆に関する絵本・紙芝居のおはなし会、原爆パネル展を開きました。台風の中、10人集まり、折り鶴を折る手、原爆パネルを見る目、みんな真剣でした。児童クラブでも、平和について考えるおはなし会や『はだしのゲン』の上映を出前しました。『はだしのゲン』は何度見ても心が震えます。伝え続けなければ！